

報告します **新庁舎・消防本署建設工事契約**

国東市新庁舎建設工事の契約締結

入札の結果、下記のとおり契約を締結しました。工期は平成28年3月20日までとしています。

平成26年度 国東市新庁舎建設工事 (建築主体工事)

契約の金額 1,558,440,000円
契約の相手方 鴻池・木戸建設工事 共同企業体

平成26年度 国東市新庁舎建設工事 (電気設備工事)

契約の金額 344,224,080円
契約の相手方 株式会社 九電工 大分支店

平成26年度 国東市新庁舎建設工事 (機械設備工事)

契約の金額 445,536,720円
契約の相手方 九電工・山口水道工業 特定建設工事共同企業体

起工式 10月20日(月) 午前10時

国東市消防本部等建設工事の契約締結

入札の結果、下記のとおり契約を締結しました。工期は平成27年5月29日までとしています。

平成26年度 国東市消防本部等建築主体工事

契約の金額 297,432,000円
契約の相手方 木戸産業株式会社

平成26年度 国東市消防本部等電気設備工事

契約の金額 71,003,520円
契約の相手方 杵築電気工事株式会社

平成26年度 国東市消防本部等機械設備工事

契約の金額 50,220,000円
契約の相手方 旭工業株式会社

平成26年度 国東市消防本部外構工事

契約の金額 38,664,000円
契約の相手方 豊栄建設株式会社

起工式 10月14日(火) 午前10時15分

市長日記

ふるさとの川

国東市長 三河 明史



9月 4日

私の自宅から50メートルも行かない所に富来川が流れています。富来の谷の中央、たんぼの間を流れているのですが、葦が生い茂り、所々に土砂が堆積し、木が生えていたり、竹林になっているところもあります。こうなっていると素人の手に負えません。私が子供の頃は、こんなことはありませんでした。綺麗な水がいつも流れ、ハヤやドンコなどがたくさんいました。ハヤは小さいイナゴや小麦粉を酢や酒で練ったもの(キンゴ)と言っていました。)を針につけて、流すと良く釣れました。ドンコは、竹箆に針をしばりつけ、川の中に膝までつかり(ダブル)と言いました。)そっと石をはぐるので、そうするとまだ気がつかないドンコがいて、それを針で突くのです。弟が生まれると、母や祖母は洗濯板と石鹸と洗い物を沢山持って、川に行き、ゴシゴシと洗濯板で洗うのです。そうすると、弟のオムツのウンチを食べべにハヤ達がたくさん集まって来ます。これを面白がって子供達は、集まって川の中で遊ぶのです。

大きい川ではありませんでしたが、夏は少し深い所で皆で泳ぎました。冬になると祖母は、夏に剥いておいて保存しておいたイチビ(麻の一種)の皮の束を川に漬けに行きました。水に漬けて柔らかくして、それを金属の櫛の様なもので細く裂き、繕って細い縄にして、七島イの畳表(むしろ)の縦糸にするのです。そうす。その頃は、何でも自給自足でした。うちには、アヒルを飼っており、朝、小屋の戸をあけると列を作って川に行き、一日遊んで夕方になるとまた列を作って小屋まで帰ってくるのです。故郷の川は、水も豊かで生活や遊びの場でもありました。ただ、堤防は良く切れました。大水が出ると堤防はすぐに切れ、田んぼに土砂が流れ込みました。堤防が、石積みやコンクリートになるとほとんど堤防は切れることはなくなり、木や竹が川の中に生え始めた原因は良く分かりませんが、洗剤や浄化槽などの生活排水が川に流れ込んで富来川がコンクリートになったとか、護岸が石積みやコンクリートになったので、田んぼなど水が行き来がなくなったからとか、言われています。故郷の川は、昔は、水が豊かな本場に綺麗な川でした。

「寝た子を起こすな」について考える

同和問題

9月から行政区毎に順次地区人権学習会が開催されています。毎年学習教材を作るわたしたち「教育研究委員会」メンバーは、地区人権学習会の学習内容に必ず「同和問題」を組み入れるようにしてきました。ところが、同和問題を扱うと「寝た子を起こすな」という意見が出るのがよくあります。この点について一緒に考えてみたいと思います。

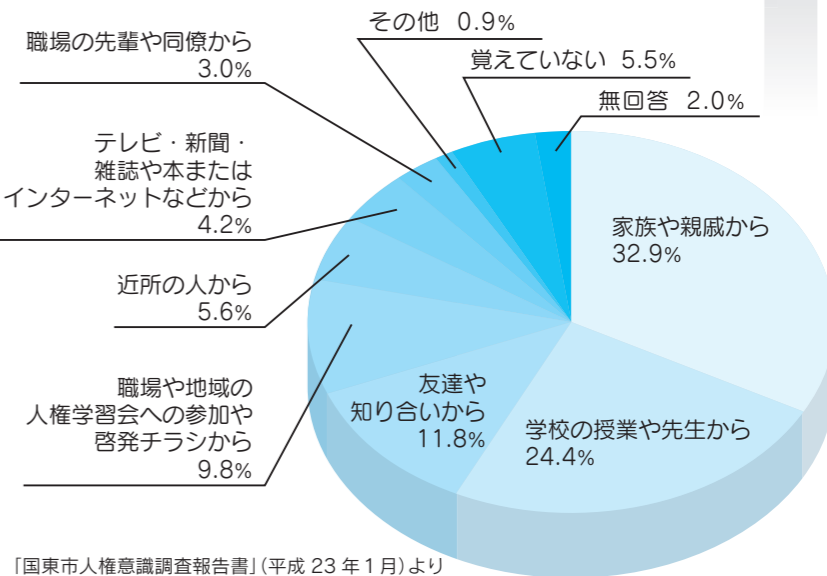
まず同和問題とは、同和地区に生まれたというただそれだけの理由で、国民誰もが保障されている基本的人権が不当に侵害される、我が国固有の人権問題です。

「寝た子を起こすな」という考え方は、「今ではもう差別はなくなっている」「何も知らない人に教えたなら差別が広がる」「そつとしておけば自然になくなる」ということなどが根拠になっていると思われまます。右記の青文字部分についてですが、グラフをご覧ください。これは平成23年1月の「国東市人権意識調査報告書」の一部です。市民の方に「同和問題について、あなたが

初めて知ったのはどんなきっかけですか?との質問に対する答えです。この結果からもわかるように、無回答の2・0%を除き、ほとんどの人が同和問題について知っているという結果が出ています。市民の方は程度の差はあれ同和問題のことを知らないのではなく知っています。

気になるのは同和問題をどのように教わったかです。知ったきっかけはグラフのとおりですが、この中に同和問題について間違った認識や偏見が伝えられている可能性があると思われる。したがって、「起こす」ということは、「全然知らない人に初めて教える」ということではなく、むしろ「間違った認識を持っている人に正しいことを伝える」ことであり、とても大切なことなのです。ぜひ、地区人権学習会に参加していただき、思い込みや偏見がないか、もう一度自分自身について考えてみませんか。

(文責・安岐分室 本多)



「国東市人権意識調査報告書」(平成23年1月)より

第7回 国東市隣保館まつり 「川柳の川柳」応募作品

- ☆夏野菜子どもに送る母心 国見町 池田 初音
- ☆親心離れていても通じ合う 武蔵町 前田 昌也